587	何事にも一生懸命だった子	588	卒業式に手紙をくれたこども	589	わざわざ会いにきてくれた。	590	今まで出会った全ての子どもたち
591	苦手な事に一生懸命頑張っていた子	592	担任した子ども達 支援を要する子ども達	593	教室でキラキラした目を輝かせながら挙手する姿	594	結婚式前日にサプライズパーティーをしてくれた。
595	暑い日も、寒い日も、 一生懸命に掃除をする子どもたち。	596	友達が頑張ってできるようになったことを自分のことのように一緒に喜んだ子たちの姿です！！	597	結婚式の次の日、朝教室に入ると黒板いっぱいにおめでとうメッセージと祝福の歌は感動的でした！	598	あいさつ運動で、丹小元気くんというキャラクターを作り、かぶりものを作って、あいさつの啓発をしてくれた。
599	教職を退職して大学院に行き、臨床心理士になりました。 心に残る子どもたちは、不登校でケアした子どもたちです。	600	いつも笑顔。自分の意見をはっきり伝える事ができ、他人の意見にもなるほどと共感できる。そんな小学生がうちの学校にはたくさんいます!!	601	以前、高学年を担任しているときに毎日、当番を決めて登校時に自ら企画した挨拶運動を行い、下級生にも善きお手本を示すことができた、担任冥利につきる出来事でした。	602	コロナ禍で、なかなか練習もできないなか、一生懸命金管の練習を頑張っていた。2月26日に行われた、奈良県小学生金管フェスティバルでは、その成果を存分に発揮し、思い出に残る演奏をすることができた。
603	車椅子の子どもとの出会い。 誰よりも頑張りやで他のみんなと同じように学校生活を送りたいという気持ちが強かったです。最後まで一生懸命な姿が印象的でした。これからはみんなを空から見守って下さい。ありがとう。	604	いつも元気に挨拶できる生徒たち。 ホームルームも明るくなり、先生も思わずにっこりしてしまう。 授業も楽しく、思わずたくさんのことを伝えたくなり、あっという間に1時間。 こんな日々がずっと続いてほしいと思う。	605	講師をして初めて担任を持った2年3組の31人の子供たちのことは、今でも心に残っています。まだ7歳のみんなから、毎日元気とパワーをもらっていました。今でもみんなどうしているかなぁ、どんな風に成長しているのかなぁと、思い出します。	606	はじめて一年生の担任。 元気いっぱいの一年生に毎日へとへとになっていたわたし。 プールの時間も大変で、見かねた校長先生が一緒に入ってくださりました。 校長先生のことが大好きになった一年生。 今年は高校受験の年。また会いたいなぁ。
607	はじめて担任をもった子どもたち。 毎日毎日子どもたちと遊び、笑い、怒り、泣きました。 精一杯正面からぶつかり、向き合った日々でした。 卒業までに3年間も担任を持たせてもらい、忘れられない大好きな子供たちです。 その子どもたちも来年成人。素敵な大人になることでしょう。	608	集団に入ることが苦手で、ずっと走って遠くから見ていたり、タイミングを見計らってスタート地点に行って走り、すぐさま校舎内へ逃げ込む男の子が、友だちができると授業にもスムーズに入れるようになったり、体づくりの為に一生懸命、友だちと一緒に、他のお友達がたくさんいる中で、運動場を走れるようになった。友だちのパワーで変わった子どもさんでした。	609	いわゆる手のかかる子で、日々指導の毎日。悪態もだいぶついており、「嫌われてもいい。この子のため」と思い、指導を続けていました。 修了式の日、下校後に教室に戻ると教卓の上にメモが載っていて、見てみるとその子からでした。 そこには「色々あったけど、先生のこと、キライじゃないで。」とだけ書かれていました。 思わず涙が出てきました。教師になってよかったなぁと思った瞬間でした。	610	「ひとりの喜びや悲しみをみんなでわかち合える子どもたち」 いつも自分のクラスで大切にしてきたことです。 誰かが成功した時に自分のことのように喜び、誰かが辛い時にその気持ちに寄り添おうとする。 学校という環境で、子どもたちは常に自分とは違う人とつながって行くことを学んでいる。 他者のいろんな気持ちを共有することで、まわりの人も自分も大切な存在であることに気付き、自己実現と自己有用感が育まれることにつながるのではないでしょうか。 子どもたちの素直で温かい笑顔は、私の心の中でずっと残り続けます。
611	どの子も心に残ってますが、3･4年を受け持ったクラスの中で結婚した二人がいたのです。 もちろん成人して東京でそれぞれ付き合っていた人がいたけど、奈良に帰ってきて中学の同窓会がきっかけで付き合いはじめたとか。男の子の方は、律儀な子で小学校時代から年賀状がずっと続いていました。結婚の報告受けるまでは、彼女とつきあていたことは教えてくれませんでしたけどね。ありがたいことに、今は子育てのために広島を選んで住んでるのですが、奈良に里帰り出産した時に赤ちゃんを抱かせてもらいました。 子供が子供産んでるような感覚です。私の孫のような気がしました。この仕事はいい仕事だなあ･･･。感謝します。			612	担任教師として20年経験した後、初めて特別支援教員になり5歳男児ダウン症T児を担当する。他クラスの支援もしながら、T児の保育室を行くと「あっ先生」とすぐに私の姿を見つけて手を引いて自分の座席へ連れて行ってくれた。身の回りの始末が上手く出来にくいがいつも一生懸命で心優しく作業着が畳めたら、大喜びで知らせてくれ一緒に喜び合うことができた。友達が泣いていたらすぐに私を呼びに来て「先生大変」と知らせてくれた。私のことを信頼してくれて1年だけの支援であったが卒園依頼、毎年年賀状をくれて今だに連絡を取り合っている。T児と出会ったおかげで人を受け入れ共に楽しむ大切さを教えてもらい、定年退職まで園経営にも役立てることができた。T児に感謝感謝です。		